



利用料金の徴収を行う公共施設について、施設を市が所有したまま、施設の運営を民間事業者に託す方式のことを指します。

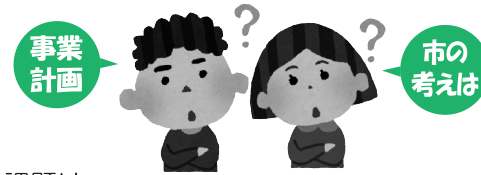


今回、一般質問でも取上げた「福津市津屋崎地区観光活性化事業策定業務報告書」の中で「市内に新たな事業主体となる運営組織(コンセッション方式)を設立し、ここに地元事業者の参画を促しつつ、民間事業者の運営と経営のノウハウや資源、資産を活用することが望ましい」と示されています。また、夕陽館の活用にあたっては、改修費用の一部を観光庁補助事業でまかない、残りを市や事業者が負担する。運営段階では市の費用負担はなく、事業者は施設の利活用に事業収入で運営。市は事業者から固定資産税相当の家賃収入を徴収する。豊村酒造別邸(民間施設の活用)も含め計画書が策定され令和4年度に市へ報告されています。

●古賀市では、コロナ禍で休業した老舗旅館(大正14年開業)を借地として管理。施設をサテライトオフィスやシェアオフィスなどに再生し、運営は事業者へ委託。移住・定住・滞在を促す新たな事業を国からの補助金を活用し進めています。新たにキャンプ場、ブルーベリー農園が開業します。



●リノベーションされた「快生館」のフリースペース

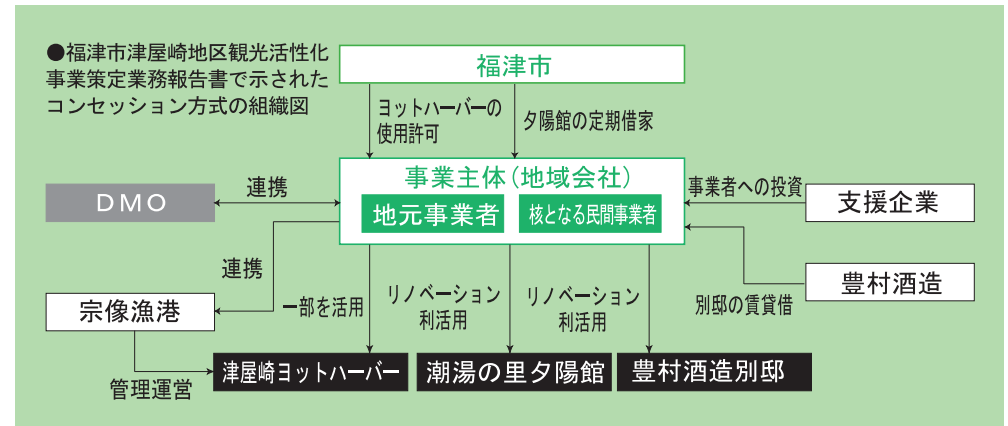


●観光活性化事業の課題は
 ①特に夕陽館については、施設の改修が急務であることから、想定される業務内容に合わせた改修工事の内容に関する検討も。
 ②事業主体には、地元事業者の参画が望ましい。また、事業の実施については、事業者側の負担として対象施設の改修費用など、多額の初期投資が想定されることから、資金調達先となる支援事業者の発掘が必要とされています。



●想起の回収が求められている夕陽館

*夕陽館の活性化は、他施設と一体となって進める必要があると考えます。



③夕陽館の改修や旧魚正の解体撤去の費用の一部は観光庁の補助事業など国の補助事業の活用のために地域計画の検討や参画する運営事業者を早期に選定する必要性など、観光活性化事業計画書では、検討課題としてあげられています。

●東福間駅周辺の再生も空き家や買物・交通といった課題にコンセッション方式で地域会社「東福間駅周辺地域再生版」を立上げ、クラウドファンディングの活用やスポンサーを発掘し、事業費の軽減もはかり進める必要があると考えます。